

障害者ピアサポート研修事業実施要綱

1 目的

自ら障害や疾病の経験を持ち、その経験を活かしながら、他の障害や疾病のある障害者の支援を行うピアサポーター及びピアサポーターの活用方法等を理解した障害福祉サービス事業所等の管理者等の養成を図ることにより、障害福祉サービス等における質の高いピアサポート活動の取組を支援することを目的とする。

2 実施主体

実施主体は都道府県又は指定都市とする。

ただし、事業の一部又は全部の事業を適切に実施することができると認められる法人に委託することができる。

3 対象者

① 障害福祉サービス事業所、相談支援事業所等に雇用等されている障害者

なお、雇用等されている障害者は常勤、非常勤を問わず、雇用契約に基づき雇用されている者のほか、今後、雇用が見込まれる者を含むものとする。

② ①の者が所属する障害福祉サービス事業所等の管理者等、ピアサポーターと協働し支援を行う者

4 研修内容

標準的なカリキュラムは、別紙のとおりであり、この内容以上のものとする。

なお、必要に応じて時間数を延長することや必要な科目を追加しても差し支えないものとする。

5 研修テキスト

本研修テキストについては、標準的なカリキュラムに沿った内容のテキストとする。

なお、平成 30 年度厚生労働科学研究「障害者ピアサポートの専門性を高めるための研修に関する研究」において、基礎研修テキスト及び専門研修テキスト、平成 31 年度厚生労働科学研究「障害者ピアサポートの専門性を高めるための研修に係る講師を担える人材の養成及び普及のための研究」において、フォローアップ研修テキストを作成しており、成果物は厚生労働省のホームページで公開するので活用いただきたい。

6 修了証書の交付等

実施主体の長は、研修修了者に対して氏名、生年月日、修了した研修の課程、修了年月日を記載した修了証書を交付するとともに、研修修了者の名簿を作成し管理すること。

7 事業実施上の留意点

- ・ 専門研修の受講者は基礎研修の修了者、フォローアップ研修の受講者は専門研修の修了者とする。
- ・ 基礎研修、専門研修及びフォローアップ研修を一体的な研修と捉え、各研修を少なくとも年1回以上実施すること。
- ・ 研修の企画にあたっては、ピアサポーター又はこれに準ずる障害当事者が携わっていることが望ましい。
- ・ 研修の実施にあたっては、受講者が障害当事者であること、また、事業所等に雇用されている者であることを踏まえ、コミュニケーション支援などの受講環境や休憩時間等に配慮すること。
- ・ 研修参加費用のうち、資料等に係る実費相当部分及び研修会場までの旅費等については、受講者（所属する事業所等を含む。）が負担するものとする。

(別紙)

基礎研修カリキュラム

1 日目		
科目名	時間数	内 容
講 義	440 分	
1 ピアサポートの理解	30 分	・ 障害領域ごとの歴史や背景 ・ 障害領域ごとの視点
2 演習①	60 分	・ 講義「ピアサポートの理解」の振り返り、気づきの共有
3 ピアサポートの実際・事例	70 分	・ 障害領域ごとのピアサポートの実践
4 演習②	40 分	・ 講義「ピアサポートの実際・事例」の振り返り、気づきの共有
2 日目		
5 コミュニケーションの基本	40 分	・ ピアサポートの視点を取り入れたコミュニケーション技法や経験の共有
6 演習③	60 分	・ 講義「コミュニケーションの基本」の振り返り、気づきの共有
7 障害福祉サービスの基礎と実際	40 分	・ 障害福祉施策の歴史 ・ 障害福祉施策の仕組み
8 演習④	20 分	・ 講義「障害福祉サービスの基礎と実際」の振り返り、気づきの共有
9 ピアサポートの専門性	30 分	・ ピアサポートの具体的な専門性 ・ 倫理と守秘義務
10 演習⑤	50 分	講義「ピアサポートの専門性」の振り返り、気づきの共有

※ 1, 3, 5, 9 は、ピアサポーター又はこれに準ずる障害当事者が講師であること

専門研修カリキュラム

1 日目		
科目名	時間数	内 容
講 義	540 分	
1 基礎研修の振り返り	30 分	・ 基礎研修の振り返り
2 ピアサポーターの基礎と専門性	40 分	・ 障害特性に応じた専門性
3 演習①	60 分	・ 講義「ピアサポーターの基礎と専門性」の振り返り、気づきの共有
4 ピアサポートの専門性の活用	40 分	・ 障害特性に応じたピアサポートの専門性を活かすための視点
5 演習②	30 分	・ 講義「ピアサポートの専門性の活用」の振り返り、気づきの共有
6 関連する保健医療福祉施策の仕組みと業務の実際（障害者）	各 40 分	・ 関連法、関連施策
6 ピアサポートを活用する技術と仕組み（事業所）		・ 現場におけるピアサポートの活用方法
7 演習③（障害者）	各 40 分	・ 講義「関連する保健医療福祉施策の仕組みと業務の実際」の振り返り、気づきの共有
7 演習③（事業所）		・ 講義「ピアサポートを活用する技術と仕組み」の振り返り、気づきの共有
8 演習④	20 分	・ 障害者、事業所職員別講義及び演習内容についての共有
2 日目		
9 ピアサポーターとしての働き方（障害者）	各 30 分	・ 労働法規
9 ピアサポーターを活かす雇用（事業所）		・ ピアサポーターを雇用し、協働する上での留意点
10 演習（障害者）⑤	各 40 分	・ 講義「ピアサポーターとしての働き方」の振り返り、気づきの共有
10 演習（事業所）⑤		・ 講義「ピアサポーターを活かす雇用」の振り返り、気づきの共有
11 セルフマネジメントとバウンダリー	30 分	・ ピアサポーターが葛藤しやすい状況 ・ 病気や障害を抱えて働く上でのセルフケア
12 演習⑥	40 分	・ 講義「セルフマネジメントとバウンダリー」の振り返り、気づきの共有

13 チームアプローチ	40 分	・所属機関（チーム）におけるピアサポーターの役割と協働における留意点
14 演習⑦	60 分	・講義「チームアプローチ」の振り返り、気づきの共有

※2，4，11は、ピアサポーター又はこれに準ずる障害当事者が講師であること

※13は、ピアサポーター又はこれに準ずる障害当事者及び専門職が講師であること

フォローアップ研修カリキュラム

1 日目		
科目名	時間数	内 容
講 義	540 分	
1 専門研修の振り返り	30 分	・ 専門研修の振り返り
2 障害特性	60 分	・ 障害領域ごとの障害特性
3 働くことの意義	30 分	・ ピアサポーターとして職場にもたらす効果
4 演習①	60 分	・ 講義「働くことの意義」の振り返り、気づきの共有
5 障害者雇用	40 分	・ 障害者雇用の実際と留意点
6 演習②	60 分	・ 講義「障害者雇用」の振り返り、気づきの共有
2 日目		
7 ピアサポーターとしての継続的な就労	60 分	・ ピアサポーターとしての能力を発揮し、働き続けるために必要なポイント
8 ピアサポーターとしての効果的なコミュニケーション技法	60 分	・ 職場内や関係機関との連携の中で発信力を高めることによる専門性の発揮方法
9 演習③	70 分	・ 講義「ピアサポーターとしての効果的なコミュニケーション技法」の振り返り、気づきの共有、事例検討等
10 ピアサポーターとして現場で効果的に力を発揮するための準備	30 分	・ ピアサポーターとして雇用される上での準備、留意点
11 演習⑤	40 分	・ 講義「ピアサポーターとして現場で効果的に力を発揮するための準備」の振り返り、気づきの共有

※ 3, 7, 8, 10 は、ピアサポーター又はこれに準ずる障害当事者が講師であること

※ 9 は、ピアサポーター又はこれに準ずる障害当事者及び専門職が講師であること